高等部道徳科学習指導案 『現場実習での喜び』

**１　主題名**　志を高く生きる　D-(２２）　よりよく生きる喜び

**2　ねらいと教材**

（1）ねらい

・志を高く生きる。

・自分自身の良さや、可能性を自覚することができるようにする。

・人間が持つ強さや弱さ、気高さについて自分自身を振り返って理解できるようにする。

（2）教材　　現場実習での喜び　（P１０２-１０５）

**３ 主題設定の理由**

本主題は、以下の中学校新学習指導要領「特別の教科 道徳」（平成２９年３月告示）の内容項目のねらいを受け、個々の生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況及び経験等に応じるとともに、青年期の特性を考慮して、健全な社会生活を営む上に必要な道徳性を一層高めるために、適切に指導の重点を定め、指導内容を具体化した。

|  |
| --- |
| D　主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること　（２２）　よりよく生きる喜び  人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることに喜びを見いだすこと。 |

1. ねらいとする道徳的価値について【価値観】

「人間の持つ強さや気高さ」、「弱さや醜さ」の両方を含めての人間性を理解し、「よりよく生きる喜び」の中でいかにやり遂げ、充実感や満足感などを味わい、喜びを見いだしながら豊かな人生を送ることが大切である。また、自らの難しかったことや苦手なことを克服したり、考えながら良い方向に向かったりすることで、できることが増えたり、上手になったりすることで新たな喜びにつながっていくと考える。

しかし、実際の生活の中では、なかなか自分に自信が持てずに、劣等感に苛まれたり、妬み、恨み、羨ましく思ったりすることがある。

これからの学校生活や将来の社会生活を見据えながら、各教科等や学校行事等の様々な体験活動を通して、自分自身の良さや可能性を自覚できるようになるとともに、弱さや醜さに気付いたことを含めて、強さや気高さに変えられるという自信を持ち、自己肯定感を育てていきたい。

（２）生徒の実態について【生徒観】

自分の気持ちや考えを言葉で表現することができる生徒、言葉やイラストから選択して表現すること

ができる生徒、表情やジェスチャー、身体の一部の動きで感情を表出することができる生徒を対象とする。

語彙が少ない生徒には、表情やジェスチャーなどを用いながら動きをしたりして考えるよう促す。また、気

持ちの表現が難しい生徒は、表情イラストを用いて、自分の気持ちに近いものを選択できるようにする。

日常の学校生活においては、他教科等や自立活動と関連しながら、体験的な学習を通して、自己の強みや弱さ、できた・できるようになったこと、苦手なことや難しいことなどについて気付くとともに、課題を通して自己と対峙して考える機会を設ける。

協働的な学習の中においても、他の生徒との関わりを通して、多様な個性に触れるとともに、自分を高め、身近な仲間とよりよい関係を築き、互いの良さを見い出していけるようにする。

家庭生活や地域生活でも、互いの多様性を認め、みんなが前向きに生活できるとともに、自分を活かすことができるよう、家庭や地域との連携を深めておく。

（３）教材について【教材観】

現場実習先での実習担当者とのやりとりの中で、自信や苦手さを感じたり、自らを奮い立たせたりするなどの気持ちや考えの葛藤、喜びを理解し、多様性や客観的な見方・考え方についての話を紹介している。挿絵でも登場人物の心の葛藤などをイラストで示している。

この話を読んで、主人公の桜さんの心の葛藤や、意欲の高まりに触れる学習を行ってから、自分自身の良さや可能性、弱さ、よりよく成長しようとする気持ちの強さについて考え、目指す生き方や誇りある生き方に近づくことができることに目を向けたり、できるようになったことや苦手さを克服した喜びに気付いたりするなど、学校生活や校外学習、様々な人々との関わりなどの体験を振り返って考えることができる教材となっている。

**４　学習指導計画**

（1）全体計画 １時間

（2）準備　　　登場人物イラスト、実際の現場実習時の画像や動画、ワークシート、ミニホワイトボード

（3）指導過程

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 時間 | 学習活動（主な発問） | 予想される生徒の発言 | 指導上の留意点  ☆評価の観点 |
| 導  入 |  | １　これまでの学校生活や家庭生活など  を振り返り、最後までやり遂げたことや充実したり、満足感を感じたりしたこと、苦手だったことができるようになったことなどを考える。  ・やり遂げたり、できるようになった時に感じた気持ちや考えを発表する。 | ・ものづくり  ・係活動  ・苦手な運動  ・作業学習でやり方や順番を覚えた | ・これまでの体験等を振り返る。  これまでの学習の記録や画像を用いて、学校生活や家庭生活での成功体験や場面を思い出す。  ・取り組んでいるときの自分の姿や表情をイメージしたり、心の葛藤について考えたりしたことを発表するように伝える。  ☆自身の持つ長所や短所、できることや苦手なことなど様々な場面で向き合うことがあることについて理解する。  （思・判・表） |
| 展  開 |  | 2　教材「現場実習での喜び」を読み、本文の内容や情景等を思い浮かべる。  課題　桜さんが自分の良さやできることに気付くまでの心の葛藤について考えよう。  〇桜さんは、自信を持っていたことを注意されて、どのような気持ちになりましたか。  ・本文P１０２を読み、桜さんが感じた様々な気持ちの変容や気付いたことなどについて考え、P１０４に記入する。  ・自分の現場実習の経験を踏まえて、友達やグループで意見交換をし、発表する。  〇実習担当の人は、どのような気持ちや考えで桜さんに注意したのでしょうか。  ・注意した後は、どんな気持ちで桜さんと関わっていたのでしょうか。  ・本文P１０２-P１０３の桜さんと実習担当の人のやりとりや場面を参考にして、役割演技を行い、感じたり、気付いたりしたことなどを発表する。  ・友達と意見交換をする。  〇次の日、桜さんは、どうして気持ちを切り替えることができたのか、考えてみよう。  ・本文P１０３の桜さんと実習担当の人とのやりとりやイラストを参考にして考え、P１０４に記入する。  ３　どんなことがあったら、今よりさらに頑張  ろうという気持ちになりますか。  ・P１０５に提示してあるイラストを基にしたり、これまでの現場実習や学校生活の中での経験を振り返って考えて記入する。  ・書いた内容を発表する。 | ・頑張ったのに悲しい  ・とても嫌な気持ち  ・もうしたくない  ・先生に相談しよう  ・大変だけど応援しているから  ・責任を持つことややり方やルールは大切だから  ・どのように伝えると分かってもらえるかな  ・誉めてもらえた。  ・認めてもらえた。  ・仕事は楽しい  ・最後まで実習を頑張ろう。 | ・声の抑揚をつけながら読み、心の葛藤など登場人物の様子が伝わるようにする。  ・本文から、桜さんの気持ちや考えが綴られている部分を抜き出し、教師とやりとりしながら理由についても考えるように伝える。  ・発表した意見は板書し、共有するとともに、共感したことや更に考えたことなどを発表しても良いことを伝える。  ・役割演技では、桜さんや実習担当  の人役、店内にいるお客や従業員の役など全員に役割を振り、多面的・多角的な視点で考えられるようにする。  ・役割演技後に、演じた立場での意見を発表したことを板書し、共有する。  ・友達と意見交換するときは、板書の意見を参考にして話をするように伝え、考えを深められるようにする。  ・友達との意見交換時の板書を参  考にしたり、自らの現場実習での体験を踏まえて考えたりするように伝える。  ・各教科等や行事など、個別に取り  組んできたことや協働的な活動などキーワードとして提示したり、掲示物の学級通信を見ながら振り返ったりしても良いことを伝える。  ・発表する際は、教師とやりとりしな  がら、考えた理由についても尋ね  ていくようにする。  ☆自分の考えを書き、発表できた  か。  （知・技） |
| 終  末 |  | ５　深めたことについて、共有し合う。  ・授業を振り返り、自分の生活やワークシートと関係させながら考える。 | ・これからの社会生活や学校生活を見据えて、もっと自分を高めて生きていこう | ・自分の良さや得意なことを知ると  とともに、できることが増える喜び  を感じ、更に高めていきながらより  よく生活できることを考えて過ごす  ように伝える。 |

（4）終末での教師の説話例

学生時代に目指した将来の人生観や、職業観の変容を挙げるとともに、それまでの様々な体験や多種多様な人々との出会いの中で気持ちや考えが変わったことなどの教師自身の体験を話す。

自身の強さや弱さを知ることで、できることや苦手なことを理解するようになるとともに、特徴を受け容れ、自身の得意分野で、より力を発揮していくことや、周りの信頼を得ること、感謝の気持ちを持つ大切さを、これからの様々な活動を通して、体感し、気付き、自身の喜びへと繋ぎ、繋がれていくことを伝える。